

# は〜もに〜い

Harmony

南相馬市



「は〜もに〜い」には、「調和」や「和音」という意味があります。男女がお互いに尊重し、支え合い、仕事と家庭のよりよいバランスを考えていくことによって、より心地よくもっと心に響くハーモニーを奏でられたら……そんな願いをこめて本紙に名付けました。

## 主な内容

## CONTENTS

- 女性が輝く社会
  - 女性の活躍を応援
  - 農業大好き家族
  - 地域のつながりを大切に
- 男女共生推進事業「講演会」

第9号

2018年春号

女性の活躍を応援し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる企業を紹介します。

## 石川建設工業株式会社

所在地 南相馬市原町区大町三丁目 30 番地  
業種 総合建設業  
社員数 46名（うち女性6名）  
H26年1月「子育て応援」中小企業認証  
H28年1月「働く女性応援」中小企業認証  
「仕事と生活の調和」推進企業認証



女性の活躍を応援し、働きやすい職場づくりのため、「プラスワン休暇の推進」「女性社員の管理職登用」の取り組みを行っている石川建設工業(株)総務部主幹課長の古内秀夫さんにお話を伺いました。

### Q：「子育て応援」をはじめ、「働く女性応援」「仕事と生活の調和」の推進に取り組んだきっかけは。

当社は、地域に育てられている企業です。若い人にも安心して働いてもらえるように、そして、みんなで地域を盛りあげていてもらいたい、との思いから取り組みました。

### Q：男性社員の育児休業制度があるとお聞きしたのですが。

社内制度としては以前からありましたが、男性が育児休業を取得した実績がありませんでした。そのような状況の中、本人から、この制度を利用したいという申し出がありました。会社としては、家庭があつての仕事ですので、ぜひこの制度を利用して、家庭も大切にしてもらいたいと思い、育児休業（120日）を取得してもらいました。

### Q：プラスワン休暇の推進とはどういった内容のものですか。

長時間労働を解消し、従業員の家庭生活への参加の促進を目的としています。土、日、祝日を会社休日（年間100日）としていますが、夏期休暇や土日の休日に有給休暇をプラスして連続休暇とする「プラスワン休暇」の推進に取り組んでいます。

### Q：女性の管理職の登用について。

現在、6名の女性社員のうち、管理職は2名です。その中には、現場監督者として活躍している女性社員もいます。仕事と家庭を両立しながら、一般土木施工管理技士の資格を取得し、現場監督者として頑張っています。

### Q：企業として今後の取り組みについて。

超高齢社会と呼ばれている状況において、これからは親の介護が必要になってきますし、社員本人の病気治療と職業生活の両立支援も考えていく時期と感じています。現在は、より働きやすい職場にするために社内制度の見直しを含め検討しています。

男性の仕事というイメージが強い建設業界の中で、女性の現場監督者として活躍されている緑川春美さん（50歳）にお話を伺いました。

### Q：女性の現場監督者としてのご苦労などはありましたか。

ベテランの職人さん達と一緒に現場を造り上げるのが一番大変でした。男性社会なので、女性の現場監督など、なかなか受け入れてもらえませんでした。

### Q：さまざまな分野での女性の活躍が注目されていますが、女性で現場監督を目指している人へ一言。

建設業という仕事は、まだまだ男性社会なので色々大変ですが、男性にはない、女性からの視点をもって仕事をすれば、とても楽しい仕事だと思います。

### Q：仕事を続けていくためには。

家族の協力がなければここまで続けられませんでした。今年でこの仕事も27年目になり、子どももいつの間にか育っていたように感じます。これまでいろいろ大変なこともありましたが、一つの現場をみんなで造り上げるのは、とても楽しいと今だから思えます。

### Q：今後の目標をお聞かせ下さい。

特に具体的な目標というのはありませんが、東日本大震災で私自身、親を亡くしてしまったので、この仕事で、震災からの復旧・復興を手掛けられたことが何より心の支えになりました。

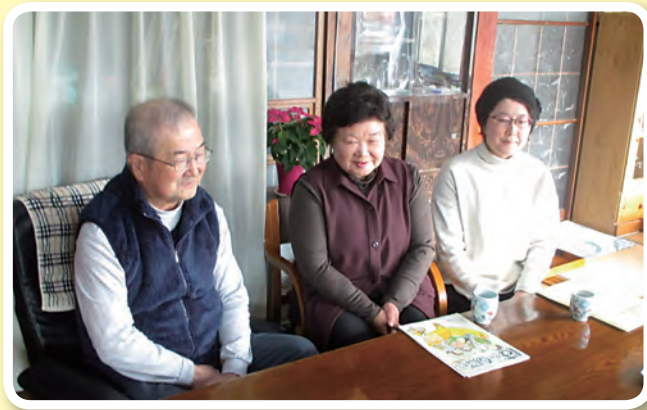
また、体力が続く限りこの仕事を頑張っ続けていけたら、と考えています。

### 取材を終えて

積極的に仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に取り組むことにより、一人ひとりの社員を大切に、働きやすい職場づくりを目指している企業であるという印象をもちました。男性社員の育児休業の取得にとどまらず、家族の介護支援、病気療養支援にも積極的に取り組むために、制度の見直しを行っている姿勢に強く感銘を受けました。

# キラッと輝く、農業大好き家族を紹介します。

専業農家で母と娘で協力し、農作業をしています。



▲写真左より上善さん、久子さん、由枝さん

よねくら たかよし  
米倉 上善 さん(72歳)

ひさこ  
久子 さん(69歳)

よしえ  
由枝 さん(42歳)

トミ子 さん(91歳)

〔鹿島区台田中在住〕

久子さん、由枝さんが中心になり農業に取り組んでいます。久さんは野菜、由枝さんは水稲を担当し、畑と水田の時期がかち合わないようにつけ替えています。

上善さんが現役の時は、水田約20ヘクタールと、その他、ハウスにニラ、ネギ等を大規模につけ替し、関東方面などへの米の直売もしていました。震災当時から現在に至るまで、お客様から支援物資を送っていただいているそうです。人との絆を感じ、有難さに涙した事もあったようです。現在は、労力を考えて規模を縮小しています。

## Q：女性の作業として大変なことはありますか。

今は、作業のほとんどが機械化されているので体力はそれほど必要なく、女性だからと言って、特別大変なことはありません。家族が体調を崩した時などには、親戚や近所の人たちに助けをもらいながら作業しています。

## Q：由枝さんは農業を継ごうと思ったのは、どうしてですか。

私は、生まれつきアトピー性皮膚炎であり、食事制限も多く、両親はとても苦労していました。野菜作りをしている両親の姿を見て、私も興味を持ち、仕事を手伝うようになりました。好きな野菜作りをしていた為か少しずつアトピー性皮膚炎もよくなりました。

20年前、父が体調を崩し、農業を続けることが困難になりました。そこで、兄たちと話し合い、私が就農する決意をしました。農業を継ぐことに迷いはありませんでした。そして、体が不自由な父のために、また、これ以上父の体調が悪くならないように、体に良いものを食べてもらいたいとの思いから「野菜ソムリエ」と「食育アドバイザー」の資格を取りました。

## Q：久さんは男女共同参画という言葉を知っていますか。

以前から知っていました。私が嫁いできたころに、夫の祖父（吉蔵）からの「これからは、女性（嫁）だってどんどん外に出て行って勉強しなくてはならない時代だ」という教えがありました。その当時は、そのような考え方をした人は周りを見ても、非常に少なかったのではないかと思います。そこで私は、いろいろな研修会にも参加し、市が合併する以前の旧鹿島町では、農業委員をしていました。海外の研修生を受け入れたり、また、若い人を育てるため、県指導農業士として任命され、60歳まで務めました。以前は、女性の農業士と呼ばれていましたが、後に男女の区別なく指導農業士と呼ばれるようになりました。

**Q：農業をしていて良かったと思ったことをお聞かせください。**

農家は3Kと言われ、大変だとか、汚いというイメージがありますが、農業は、四季折々の季節を感じながらできる仕事で、作物を育てる楽しみがあります。ですから、ストレスは感じません。

また、農家によっては、早朝から夜まで作業をしている所もありますが、私たちは家族の世話もありますので、決して無理はせず、家族のための時間を最優先しています。時間に余裕があるときは家族で旅行に出かけたりしています。楽しい計画を先に立てて、それに合わせて仕事をするように心がけています。

先日、地元の小学校の社会科見学があり、子どもたちは、野菜やトラクターを見て喜んでいました。その際、子どもたちからお礼の手紙をもらうことができ、励まされ、元気をもらいました。



子どもたちからの手紙



収穫したブロッコリーと長ねぎ

米倉さんが、子どもたちからもらった手紙の一部を紹介します。  
見学をさせていただきありがとうございました。

- 😊 ブロッコリーをさわったら、やわらかいのとかたいのがあって、とくに小さいブロッコリーはかわいかったです。
- 😊 見学できたおかげで、トラクターで田や畑を耕すことがわかりました。トラクターにはじめて乗せてもらい、こんなに高い所とは思わなかったです。
- 😊 米倉さんみたいに農家になりたいです。野菜のことが好きになりました。
- 😊 肥料もいろいろあるのは、すごいと思いました。
- 😊 米倉さんみたいに野菜を育てたいです。これからも新鮮でおいしい野菜を作ってください。農家のお仕事がんばってください。
- 😊 見学させていただいたおかげで、とても野菜が好きになりました。米倉さんが作った野菜を食べてみたいです。

**Q：上善さんは、由枝さんにどんなアドバイスをしていますか。**

アドバイスは特にしておりませんが、娘は、悩んだり、失敗しながらも前向きに頑張っているようです。私や私の母（トミ子）の体調を気遣ってくれる優しくて頼もしい娘です。何よりうれしいのは、私たちの思いを受け継いでくれることです。これからも楽しみ（映画鑑賞、ドライブ）を持ちながら農業を続けてもらいたいです。

**取材を終えて**

久子さんの義祖父である吉蔵さんの言葉こそ、私たちが推進する男女共同参画の求めている先駆的な考えではないでしょうか。農業は、季節や自然と密接に向き合う仕事ですが、充実した家庭生活を両立できる、可能性のある魅力的な業種でもあります。子どもたちや若者の体験学習の機会を増やすなどして、イメージアップを図るべきだと感じました。今後も、米倉さんのような女性農業者や若い担い手の活躍に期待したいものです。

# ITで地元をPR・地域のつながりを大切に！！

瀬下さんご夫婦を紹介します。お二人は学生時代を福島市で過ごした後、仕事も同市でされていました。その後、札幌市に9年間在住し、平成28年7月から智美さんの実家のある小高区で生活しています。



瀬下 徹夫 さん  
(北海道出身 | T関連の仕事)

智美 さん  
(小高区出身 | ICT支援員)

## Q：どんなお仕事をしていますか。

徹夫さん：IT関連の会社を経営しています。インターネットを活用したシステムの構築、企画立案、ウェブサイトのデザイン、運用、再開発や南相馬市の人材育成等の仕事をしています。

智美さん：ICTサポーターの仕事をしています。主に、小高区4小学校と上真野小学校の子どもたちにパソコン指導をしています。具体的には、子どもたちに Pepper（人型ロボット）のプログラミングの指導をしたり、授業で使用するコンピューターのトラブル時の対応をしたりしています。子どもたちは、自分の作ったプログラムによって、動く Pepper を目の当たりにし、とても興味深く楽しみながら学んでいます。



## Q：小高区で生活するようになったきっかけは。

智美さん：札幌市のマンションが手狭になり、物件を探していたところ、偶然にも小高区の実家のそばに空いている家がありましたので、そこに住むことに決めました。

徹夫さん：都会暮らしが長かったのですが、私も自然豊かな環境で育ったので、新しい環境で暮らすことに抵抗はなかったです。

## Q：生活してみてもうですか。

徹夫さん：震災後引っ越して来た当時は、とにかく「車」がないと生活できない所だと感じました。日用品を買い求める店も少なく不便に思うこともありましたが、ネット通販を利用することで乗り切りました。ネット通販は何でも揃っているのでよく利用しました。

北海道に住んでいたころよりも、日曜大工や、家庭菜園など自分に向いている仕事も多く、草刈り等頼まれることもあります。地域の方との交流もあり、感謝されることも多くなりました。どれも楽しみながらやっており、毎日が充実しています。近所の方々も親切で、温かい人柄に触れ、支えてもらっています。引っ越してきて良かったと思っています。

智美さん：高校卒業後、ずっと小高区を離れており、以前住んでいた頃に比べ、町並みが変わり、文化施設や、区役所も新しくなり、どこか新鮮に感じる部分もあります。震災もあり、悲しい思いをしている方々もたくさんいらっしゃるので気持ちは複雑ですが、自然もきれいで、海沿いの風にあたりると「故郷はいいな」と感じています。

## Q：小高区の小学校で指導していて、どうですか。

智美さん：仮設校舎の時から子どもたちをサポートしていますが、平成29年4月には小高区で学校が再開し、仮設校舎に愛着を残しながらも、小高区の校舎に戻りました。現在では、パソコン室やプログラミング室もあり、子どもたちの活動の場も広くなりました。子どもたちのサポートをしていることが、とてもうれしいです。

## Q：男女共同参画については、どのようにお考えですか。

徹夫さん：北海道に住んでいた頃の私は、仕事が忙しく、家事はほとんど妻が中心でした。現在では、私自身、家庭での役割もあり、妻の負担を減らすこともできています。お互いの時間もでき、毎日充実した気分で、仕事や活動に取り組んでいます。

智美さん：夫は、掃除・料理が好きです。私は、お菓子作りや洗濯が好きで、お互いに自分ができること、自分が好きなことをやっています。

## Q：これからの目標をお聞かせください。

徹夫さん：仕事を通して、海外に向けて地元をPRしていきたいです。

智美さん：地元のサークル活動に加えて、いろんな活動（お茶や着付けの指導）にチャレンジしていきたいです。いつも楽しそうにしている人、と言われるのがいいですね。

## 取材を終えて

男女共同参画とは何かについて、改めて認識させられました。ご主人は家事が苦手とは思わず、むしろ頼られたと思っています。「男性だから、女性だから」という考えにはしづられず、柔軟な考えを持つことで、それぞれの個性や能力を十分に発揮できるのではないのでしょうか。相手を思いやり、感謝の気持ちを忘れないお二人。様々なことに前向きに取り組んでいる姿勢がとても印象的でした。

# 南相馬市男女共生推進事業「講演会」



平成29年10月12日(木)、原町区福社会館において、講師に美容家・生活アドバイザーの佐伯チズ氏をお迎えして、講演会を開催しました。

(南相馬市主催、復興庁男女共同参画班協力)

## テーマ ～人生を磨く「きれいのルール」～

はじめて南相馬市に来て、「こういう所に住めたらいいな」と思いました。農家で育ったので、田畑を見ると幼少期を思い出し、懐かしくて心が和みました。震災にあわれた、みなさんの故郷に戻りたいと言う気持ちが、すごくよく分かります。

美容家になったきっかけですが、私は、貧しい時代に幼少期を過ごしましたので、自分の食べる分は自分で何とかしなくてはならないと、その時気付かされました。人生に苦労は付き物と思っていましたので、人に頼らないで生きようと思い、20歳で美容免許を取りました。そして、みなさんが「きれいになった自分」を見て喜ぶ顔を見たいと思いました。美しくなるのに、男女・年齢の区別なく、みなさんにきれいになっていただきたいです。そのために、私がみなさんに勧めていることは、春の七草をはじめ、旬のものを食べることや、左右対称に良く噛むこと、両手を使うこと等、五感を意識して感じることです。そして、何よりも続けることが大切です。

講演会には約100名の方が参加し、質問コーナーにおいては、肌の悩みの他、加齢臭予防のマッサージについても話されていました。講演終了後、聴講されたみなさんは笑顔になって帰られました。

## 参加した方々のアンケート結果

- ◎年代については、大半が50代以上の方でした。
- ◎講演内容については、ほとんどの方が「大変良い」または「良い」と評価しており、講演内容を実生活に活かしたいとの意見が多くありました。
- ◎「男女共同参画」については、理解しているとする人が約50%でしたが、「良くわからない」「知らない」とする人も40%を超えており、一般の方の「男女共同参画」に対する認識は、まだまだ広まっていないことがうかがえました。
- ◎講演会については、概ね好評でしたが、もっと男性が参加しやすい内容を希望する意見も見受けられました。

表紙イラスト：小原 風子さん  
1971年福島市生まれ。子どもたちとかわる仕事を続けながら海のそばにて絵や絵本の制作を続けています。現在、南相馬市在住。

**編集後記** 今回は、「女性が輝く社会」をテーマに取材をしました。取材を受けて下さった皆さんに共通して感じたことは、既成の役割にとらわれずに活動され、ご家族の協力や理解、それに家族を思う心をもって、目標を達成されているという事でした。また、様々な分野において女性の活躍する場面が多くなり、時代の変化が静かに、力強く、動き出している事を実感しました。お忙しい中、取材にご協力していただいた皆様ありがとうございました。(情報誌部会委員一同)

## 子育て応援Webサイト「げんきッズ!! ネット」は少しの時間で簡単チェック!

「相談したい・届出」などの窓口がよくわかる!  
「イベント・お知らせ・募集・遊び場・遊び」もこれを見れば大丈夫。  
メールマガジン会員登録で毎週新着情報が配信されます。 <http://minamisoma.ikuji365.net>



この情報紙は、南相馬市男女共同参画計画推進委員会広報・情報誌部会の委員が企画・編集しました。

「は～もにい」へのご意見・感想などをお寄せください。また、地域で頑張っている方、男女共同参画を推進している職場の情報などをお寄せください。

発行：南相馬市健康福祉部男女共同子ども課  
〒975-8686 南相馬市原町区本町2-27  
TEL / 0244-24-5215  
FAX / 0244-24-5740  
E-mail : danjokodomo@city.minamisoma.lg.jp